

木育空間監修のためのガイドライン

東京おもちゃ美術館は、赤ちゃん木育ひろばをはじめ、親子のためのあそび空間、多世代交流のための空間の木育化監修を行っています。監修にあたっては、以下のガイドラインに沿って実施いたします。

1. ウッドスタート宣言をしている自治体であること。また企業の場合には、十分に木育について共通理解があること。

自治体の場合には、東京おもちゃ美術館が進める木育の行動プランである「ウッドスタート」に取り組んでいただくことが前提となります。木育ひろば、木育空間は「ウッドスタート」の延長線上にあるとわたしたちは考えています。また企業については、それぞれが考える「木育」について、あらかじめ十分に共通理解を図った上で、それが可能であれば、監修をお受けします。

2. 公共性が高い場所であること。広く一般の方が利用できる場所であること。

木育をひとりでも多くの方に知っていただくため、公共施設や地域の人たちが利用できる施設の木育化を目指します。また、この空間が地域のコミュニケーションの場になることが木育の広がりにとっては大切なことだと考えます。

3. 「木育を伝える人」を配置すること。

木育空間をつくっただけでは、その空間を通して伝えたいことは、なかなか伝わりません。その空間に込められたストーリーを語るこそが一番重要です。「木育を伝える人」がいることによって、親子の遊びや多世代交流のサポートをし、木のファンを増やすことができるのです。また「木育インストラクター」養成講座によって、人材育成サポートもしていきます。

4. 国産材とくに地域材を活用すること。

「木育」は「木が好きな人を育てる」ことだとわたしたちは考えます。身近な山や森の木を活かすことによって、木に愛着を持ち、森林への関心が高まることを期待しています。

5. 「木」の空間の特性を理解し、メンテナンスをしっかりと行うこと。

「木」は生きています。湿度によって反ることもあれば、ささくれたり、ヤニが出ることもあります。大量生産される石油製品のように全てが同じ品質になることはありません。わたしたち日本人は昔から木と上手に付き合う暮らしを営んできました。ちょっとした工夫、ひと手間によって、長く使い続けることができるのが木のすばらしさなのです。